

2025年10月改定

マクハル施工方法



ウエスにパーツクリーナーを浸み込ませ、ホイールのリムテープとビード部を脱脂します。
現段階ではAGILISTとGP5000はタイヤの脱脂が必要です。タイヤの裏面とビード部をしっかりと脱脂してください。



バルブの根元のゴム部を脱脂してからマクハルを塗りホイールに装着します。ここに塗ることで、バルブからのエア漏れを防ぐことができます。



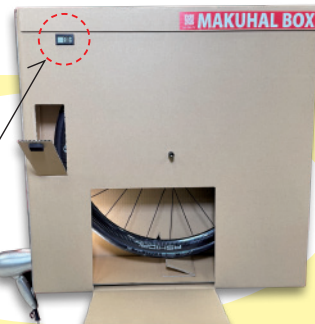
ホイールにタイヤを装着してビード部をセンターに落とします。

4～9はマクハルBOXを使うことをおすすめします。BOX内はドライヤーの熱で温度が47度に保つことができるためきれいな膜が張り施工時間も短くなります。

浴槽の中でタイヤを温めるとマクハルBOXで施工したのと同じ効果があります。動画2025年3月「浴槽で施工しました。」を参考にしてください。

マクハルBOX
温度計つき

ドライヤー
(1200W)



バルブコアを外し専用シリンジ(ヌキトル)でマクハル120ml(ロード25Cの場合)を充填します。グラベル38CとMTBは240mlをめやすにしてください。



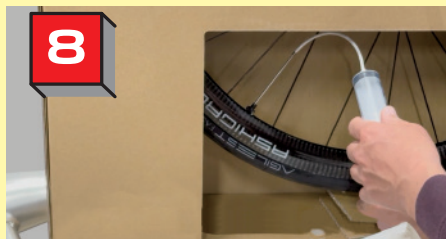
バルブコアを付けホイールを一回転させます。ビードからマクハルがにじみ出てきたら、タイヤをつかみピチャピチャとビード部を浸します。全周浸ったことを確認します。



空気を入れてビードを上げます。マクハルが飛び散るので注意してください。
CO2ポンペは使わないでください。



ビードを上げたらタイヤをドライヤーで温めながらBOXの中心の軸をゆっくり(1周15秒程度)回します。速く回すとマクハルに泡が入り、弱い膜になってしまいます。



デジタル温度計が47度上がったたらヌキトルでマクハルを抜き取ります。MTBは47度上がった時点でBOXから出し、マクハルが温かいうちにタイヤを縦にしてビードに浸かるように振ります。その後マクハルを抜き取ります。詳しくは「ホイールの振り方」をご覧ください。 →

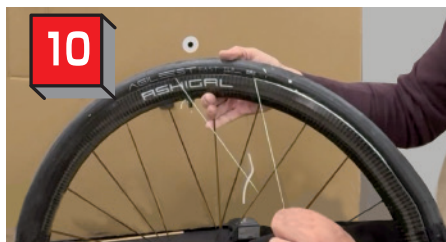


タイヤの底に溜まった抜き取れないマクハルはヌキトルの先端を平らな方に換えてゆっくり抜き取ってください。

抜き取ったマクハルは別の容器に入れ保存してください。泡が消えれば次の施工に使えます。



マクハルを全て抜き取ってから**新しいコア**を付けフロアポンプで空気を入れて完成です。
コンプレッサーを使うときは必ず水抜きをしてください。



タイヤに付いたマクハルは乾いてから剥がすと簡単に取れます。

マクハル施工・施工後にCO2ポンペは使わないでください。



ホイールの振り方

マクハルの保存について

直射日光を避け涼しい所に保存してください。長期保存する場合は冷蔵庫に入れてください。

	入れた量	膜の重さ
ロード25C	120ml	およそ20g
ロード28C	120ml	およそ25g
グラベル38C	240ml	およそ30g
MTB	240ml	およそ35g